

E-learning+グループワークを用いた多職種連携における意思決定支援



氏名 小川 孔美 准教授
 所属 社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻
 URL <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pid=202oga>
 研究分野 地域包括ケアシステムにおけるIPC (Interprofessional Collaboration) 専門職連携教育 (Interprofessional Education : IPE) 専門職連携実践における意思決定支援
 キーワード 多職種、専門職、連携、意思決定支援、グループワーク、E-learning+

■ 研究シーズの概要

平成30年9月16日総務省統計局によると、総人口が27万人減少する一方、高齢者は44万人増加し、高齢化率は28.1%と過去最高となった。こうした中、高齢者の尊厳保持と自立生活の支援を目的とし「地域包括ケアシステム」の構築が進められている。
 平成30年10月より訪問介護（生活援助中心型）の回数が多いケアプランの届出の義務付け等により、これまで以上に、地域ケア個別会議等を活用し、利用者の自立支援・重度化防止や地域資源の有効活用等を含め、多職種の視点から利用者のQOL向上のためのケアマネジメント支援について議論する機会をもつことになるが、その際の専門職連携教育及び多職種による意思決定支援の理解を深めることが重要である。

■ 共同(受託) 研究のご提案

- 市町村行政（地域包括ケア課、介護保険課等）、地域包括支援センター職員、介護支援専門員等、医療介護福祉専門職等を対象としたケアの質向上のための意思決定支援プログラム開発
- E-learning+グループワークを用いた多職種連携における意思決定支援—ファシリテーター育成のための研修プログラム開発
- 市民後見人養成 / 認知症サポータースキルアップ等における意思決定支援のための理解、手法支援 と参加者アンケート調査等



■ 特定講座のご提案

- 「意思決定支援」とは何か—基本的理解について 医療介護福祉専門職 及び ボランティア、市民後見人や認知症サポーター 等を目指す一般者向けの講座
- 現場におけるケア実践についてリフレクションするためのグループワーク
- 「意思決定支援のための多職種連携—ファシリテーションについて考える～」 など



■ アピールポイント

埼玉県立大学における教育用e-Learningコンテンツ作成のための予算により

2017年度「意思決定支援（Supported decision-making）Expressed Wish（表出された意思、心からの希望）とBest Interest（最善の利益）とは」

2018年度「意思決定支援【支援付き意思決定:Supported decision-making】Expressed Wish（表出された意思、心からの希望）を見出すための会話」がすでに作成されており活用しながら楽しく理解を深めたい。

